

今回は、先月、お客様の社内勉強会で「5S」についてお話したのですが、その掴みに「時を守り、場を清め、礼を正す」という話から入ったのです。意外に、若い方も受け入れやすいもので、その後、「5S」の話がスムーズに進みました。 栩野

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

## 「職場再建の3原則」

右掲は、お客様の社内研修で意外に受けるネタで、故森信三先生の教えです。最初の「時を守り、場を清め、礼を正す」という言葉、長男が西大和学園という私立高校に進学したいと言う時に、学校説明会で校長先生がこの言葉を紹介されて、これだけは厳しく教え込むと約束されたので、妻が反対していたのですが、私が認めたのです。

ここに言われている「時を守り、場を清め、礼を正す」は、どれも社会人として当たり前として身につけておきたい事柄です。ところが、コンサルタントとしていろんなお客様の状況を見て来ましたが、業績の乱れは、この3原則の乱れとなって現れて来るのです。

まず、「時を守り」ですが、森先生は、10分前までに会場につき、5分前には着席せよと教えておられますが、会議に遅れたり、営業マンが外交から帰社する時間が早まったりと乱れが出てくるのです。また、些事を後回しにして、結局、忘れてしまってお客様に迷惑をかける結果となるのです。約束を守るという基本は、時間を守ることから始まるのです。

次に、「場を清め」という事ですが、誰しも掃除が好きでもありませんし、また、整理・整頓は重要な事柄と分かっていても、ついつい、この書類は必要になるかも知れないなどの理由をつけ

## 「挨拶」は心をひらいて自分から声をかける事なのです。

てしまい、机の上が書類の山に積みあげてしまうのです。これでは、不必要な書類が邪魔をして、目的の書類を探し出すのに時間がかかってしまったり、書類の下に埋もれて忘れてしまう結果となるのです。

最後の「礼を正す」は、森先生によると「挨拶」と「返事」がポイントなのです。よく、うちの社員は挨拶をしないと嘆かれる幹部社員の方がおられますが、重要な問題点なのです。森先生は「躰けの3原則」で、親や教師が実践することが先行する課題だとおっしゃっています。私がサラリーマン時代に、ある上司に挨拶しなくなった時があったのですが、その方が「栩野は、挨拶しよらん」とぼやいた時に、役員の方が、「それなら、君から挨拶しら、どうか?」と諭されたそうです。まあ、私も、その会社を見限っていた時だったのです。やはり、「挨拶」や「返事」はその人の心中のバロメーターなのです。「はい」という返事の持つ意味の深さがあります。

この「職場再建の3原則」の他に、「躰けの3原則」や「立腰教育」などが知られているものです。どれも「当たり前」な事柄なのですが、心の乱れが生じると顕著に現れる変化なので、常に、チェックしておく必要があります。昔、トヨタの改善の鏗本先生に「部下の働く姿を見よ」と教えて頂きましたが、心の動きをチェックする項目として、常に、心得ておく必要があります。

逆に、森先生の教えを実践することで「気持ちが萎えた社員」を再生させる方策になるのです。整理・整頓・清掃という基本で汗を流しながら、職場が変わることを実感させるのです。その実感「喜び」となるようにタイミングよく労うことがポイントになるのです。「労う」ことは上司として当然の姿勢なのです。

### 職場再建の3原則

「時を守り・場を清め・礼を正す」

#### 躰けの3原則

1. 朝のあいさつをする子に。
2. 「ハイ」とはっきり返事のできる子に。
3. 席を立ったら必ずイスを入れ、ハキモノを脱いたら必ずそろえる子に。

#### 立腰教育

つねに腰骨をシャンと立てること、これ人間の根性に入る極秘伝なり。

1. 腰骨を立て
2. アゴを引き
3. つねに下腹の力を抜かぬこと

教育・哲学者：森信三

### ワンポイント・アドバイス

#### 整理・整頓・清掃

整理とは「要・不要を明確にして不要なものを処分する」ことなのですが、物には複数の目的があるので見切れないケースが多いのです。目的を一つに絞って、思い切って処分することが重要です。整頓は「いつでも取り出せるようにしておく」事なのです。手順を考えて並べることも重要です。

